

# 土佐の南国ルネサンス構想

(3)

元気・やる気・本気のまちづくり

定住人口とともに「交流人口」がまろの元気度のパロメーターになっています。わがまち南国市の個性と特性にはどんなものがあるか、一緒に考えてみましょう。

表から見ると立派な日本建築の建物、しかし、裏から見るとバスが家の中に飲み込まれた!?かのような不思議な建物が、南国バイパス沿いにあります。実はこれ、石材店の事務所。10年ほど前、現在の場所に事務所をつくろうとしたところ、市街化調整区域で建物を建てるのが制限されていました。そのため考え出された苦肉の策が、廻車になったバスを活用すること。その結果、バスのボディのままだと夏の暑さが厳しいことから、1面だけ残して(バスだと識別できるよう)、残りを屋根と壁で囲ってしまったため、このような変わった物ができあがったのです。

新聞やテレビでも取り上げられたことがあり、写真を撮りにくる親子連れなどの見物者もいるとか。苦肉の策で生まれたこの事務所、今ではちょっとした名所になっています。



南国よいと」  
何度もおいで……

▼行ってみたい、住んでみたい、住み続けたい」と願う魅力あるまちづくりが求められています。南国市の個性や特性にはどんなものがありますか。

なんといっても温暖な気候風土に恵まれていることですね。「雪の降らない、あつた南国」は善朴な人情・人情が明るさと爽快さをそなえた熱き心の人たちが住んでいます。

また、温暖な気候は、かつて年にお米が一度採れた超早場米地帯であり、開芸王國土佐の生鮮食糧供給基地でもあります。

それに、「開発からとり残された」ことが幸いして、青

と生き続けています。

才谷梅太郎こと坂本龍馬の生誕の地は坂若の才名です。

四国を統一した長宗我部元親、土佐日記の紀貫之からくり

い海、青い空、みどりの山野が織りなす、十ニぶる健康な自然環境に恵まれています。は、詩りうることですね。

▼高知県は坂本龍馬や坂

堀達助などのように、時代を先駆ける精神的風土が脈々



ますね。そうすると、「攻めの行政」が求められますね。産業面では農機具の協和農機(現セイレイ工業)・スマイル製作所があり、二耕作が盛んでした。現在も超早場米として好評です。施設園芸も攻めの材料ですね。世界のカシオ、鉄砲のミロク、そして、新しく南国オフィスパークが平成十年完成予定です。

観光面でも、歴史の宝庫といわれる十日町ほろばの里

(国分寺・国衙跡・阿賀城跡・

西島園芸団地・県立歴史民俗資料館など)、世界の長尾鶲、世界の電車で「ごめん」はらたいらと世界のオルゴールの柏なら、まだまだ埋もれたものを掘り起こして、全国発信できるものを育てていかなければなりません。南国市は明日の人材を創出する学園都市(高知医大・高知大農学部・高知高専・四つの高校など)でもあります。

平成九年には四国横断自動車道が南国から高知・須崎まで

車道を備えてきました。

この事実は、前月に載せた

中島かず子さんや岡林信康氏が「手紙」の数で世人」訴え

## ●いま部落は、そして……。

歌舞伎・宝塚公演ができる大劇場を――

私は今年、東京の劇団の養成所に合格し、それで役者への道を歩むことになりました。南国市の文化的・経済的な発展のためにも大ホール、大劇場を建ててみてはいかがですか。県民文化ホール(オレンジホール)のようなセコイものではなく、歌舞伎から大ミュージカル、宝塚まで呼べるような、花道あり、オーケストラボックスあり、せり、盆まわしありのものです。香川県や愛媛県にはありますよ。

小松友紀(上野田)

アイディアポストより

前月、中島かず子さんの新聞社への投書(連書)を岡林信康氏が歌にした「三紙」の歌詞と、結婚問題についての南国市民の意識調査のグラフを載せましたので、それを分析し看板にしてみましょう。

【歌詞】もし、あなたの相手が同和地域で話力渾々しているとお子さんが恋愛し、結婚まで話題になりますか。

これが次回(一九九一、平成三年・以下「次回」と略記する)の調査では、3%が「一七・一四」合計

で二八・四四に減っています。

しかし、一方では、同和地

域

両方合計すると、市民・県民の意識は?⑤

区出身を問題にするか?と云ふだけは、延びます。高知新港(高知市仁井田の外洋港)も九年に一部開港します。高知空港は十二年に一千五百㍍滑走路に延長され、遅れている土佐くろしお鉄道・阿佐西線(南国・奈半利間)も十二年開通を目指しています。

平成十四年の「高知国体」に向けて、広域高速交通のアクセスが整備されています。

▼新国土軸や中四国地域連携軸構想がいわれていますが、いずれも高知が起点になります。

1、「問題ではない」前回(一八・六六)次回(二二・一四)  
2、「人物がよければ結婚させてもらひ」前回(九・九九)

3、「どうしても結婚させたくない」(二二・九九)  
4、「自分はかまわないが親類や世間のてまえがあるので、結婚させたくない」(二二・九九)

5、「どちらの意見にするか?」

くない」と答えていた人が、約八ヶ減少しています。

以上の統計を一度まとめみると、絶対反対または、根知や世間のてまえがあるので結婚させたくないと言っている人が、次の調査では三〇・八%に、やや減少はしています。が、それで七三人に一人の割合で、同和地区出身の人とは結婚させたくないと言えている人々が存在しています。

この事実は、前月に載せた中島かず子さんや岡林信康氏が「手紙」の数で世人」訴え

たかったことは、まだまだ南市民には十分に理解されていないように思います。

しかし、その一方で子どもとの結婚相手が、「同和地区出身であっても問題はない」と「人物さえよければ結婚させてもよい」と考えている人を含めると、前回の調査では四三・五%に、一五%も増加しています。

これは今日の世相の反映もあると思いますが、長年の同和教育の転換が少しすつ広がりつつある証拠かもしれません。

昭和五十八年・以下「前回」

前回(一九八三・以下「前回」)

次回(三一・四四)に急増しています。

これらの数字から見た市民意識では、「自分の息子や娘の結婚相手が同和地区出身者であれば、絶対に結婚させたい」と思っている人が、南国市民には十分に理解されていないように思います。

この事実は、前月に載せた中島かず子さんや岡林信康氏が「手紙」の数で世人」訴え

たかったことは、まだまだ南市民には十分に理解されていないように思います。

しかし、その一方で子どもとの結婚相手が、「同和地区出身であっても問題はない」と「人物さえよければ結婚させてもよい」と考えている人を含めると、前回の調査では四三・五%に、一五%も増加しています。

これは今日の世相の反映もあると思いますが、長年の同和教育の転換が少しすつ広がりつつある証拠かもしれません。